

PET・PS 代替可能な高透明ポリプロピレンが、ディーエイチシーの化粧品容器に採用

日本ポリプロ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：飯島 要、以下「日本ポリプロ」）が製造・販売するポリエチレンテレフタレート（PET）・ポリスチレン（PS）代替可能な延伸ブロー向け高透明ポリプロピレン（PP）が、株式会社ディーエイチシー（本社：東京都港区、代表取締役社長：宮崎 緑、以下「DHC」）の新商品に採用されました。当社の延伸ブロー向け高透明 PP が化粧品容器用途として採用されることは、日本国内で初めてとなります。

本延伸ブロー向け高透明 PP は、独自のメタロセン触媒技術によって製造されたポリプロピレン「ウィンテック™」と長年培ってきた材料設計技術の融合により開発された材料です。本材料は、これまでポリプロピレン素材では困難とされていた延伸ブロー成形による透明ボトルの実現を可能とし、PET や PS に代わる新たな選択肢として期待されます。



■製品の特長

- **従来のポリプロピレンの課題を克服した延伸ブロー成形性：**
一般的なポリプロピレンでは成形温度幅が狭く、複雑形状の延伸ブロー成形は困難でしたが、ウインテック™ GNW1092 は材料設計を工夫し、成形可能な温度幅を大幅に改善することに成功しました。
- **独自技術による高い透明性の実現：**
独自のメタロセン触媒技術によって製造されたポリプロピレン「ウインテック™」と長年培ってきた材料設計技術の融合により、従来のポリプロピレンに比べ、格段に高い透明性を実現し、化粧品容器に求められる意匠性や内容物の視認性にも十分対応できる材料特性を有しています。
- **内容物の蒸発を防ぐ水蒸気バリア性：**
ポリプロピレン材料が有する低い水蒸気透過度により、内容物の蒸発を防ぎます。水蒸気透過度は PET 比で約 1/4、PS 比で約 1/20 と高いバリア性能を発揮します。
- **内容物との接触に対応した耐薬品性：**
ポリプロピレン材料そのものが持つ優れた耐薬品性により、化粧品成分との接触に対して高い信頼性・安全性を保持しています。
- **ポリプロピレン使用による CO₂排出量削減への貢献：**
ポリプロピレンは軽量のプラスチックの中でも製造時の CO₂排出量が少ない樹脂であり、PET と比較して環境負荷低減に寄与します。

■製品グレード

		GNW1092 延伸ブロー向け 高透明 PP	MG03BD 一般透明 PP
MFR	g/10min	6	30
曲げ弾性率	MPa	950	1,350
シャルピー衝撃強度(23°C)	kJ/m ²	6.5	4.5
ヘイズ値(t=2mm)	%	10	30



(左：延伸ブロー向け高透明 PP、右：一般透明 PP)

日本ポリプロは、独自技術でポリプロピレンの可能性を拡張し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

お問い合わせ：<https://www.j-polypropylene.com/contact/products-inquiry/>

メディア関係者への追加情報

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

日本ポリプロ株式会社 企画管理部 飛鳥、坂下

メールアドレス：kazuo.asuka.mw@mcgc.com